めざましい湛水直播

球磨の水稲栽培

球磨の土壌は、球磨川のはん濫によってできた沖積土からなり、不良の火山灰で地力は低い。又、気象の関係でシラハガレ、イモチ病の常習発生地でもある。つまり稲作には全く不向きであった。だがこの内陸秋落地といわれてきた地区に、それこそ革命的ともいうべき水稲の湛水直播の誕生を見た……

上球磨と中球磨の農家一戸当の水稲作付は、かなり広く、なかでも岡原村の平均は九〇㌃である。㌃当稲作労力は割合に多いが、これは一枚当りの面積が狭く、地形が複雑で、多くの団地は散在しているからである。又、㌃当収量も低く、市長村平均収量で、県平均を上廻るところはない。

悪条件克服への努力

このように生産が低いのは、気象、土壌、水に関係が深いが、気象は鹿児島、宮崎県に接してより台風害の頻度が高い。また盆地で霧が多く、日照りの時間が短かく、温度較差が少い。このためシラハガレ、イモチ病の常習発生をみている。土壌は不良の火山灰からできているものと、球磨川のはん濫によってできた沖積上からなってより、地方は低い。地形は複雑であるため漏水田あるいは湿田が散在している。水の不足と土地が悪いため、神殿原を主体に原野が多い。

かんがいされる水は、球磨川と、百太郎溝、幸野溝の二大水路が主体であるが、これらの水には土地が悪いために養分の含量が少い。

このように自然環境は、稲作に恵まれない地区であり、内陸秋落地といわれてきた。

昭和年代の水稲主要品種は、福神→農林一二号→農林三七号→黄金錦Pi五号→アリアケと変った。栽培法では、昭和二十年～昭和三十年代にかけて、二条培土栽培、早期栽培の導入をはかったが計画通りには普及しなかった。

このように栽培技術の改善が農業試験場球磨分場を中心に行なわれたが、各種不良条件を克服する程、解決にはならなかった。

普及率全国一の湛水の直播

数年前から水田たばこ作が急激に増え、また酪農が盛んになった。その結果農家の現金収入は多くなかったが、労力は不足した。この対策として、耕耘機等の購入が盛んになり、県下一位の普及地区となった。また田植を要しない、湛水直播の誕生となり、昭和三十七年に岡原村での試作が昭和四十一年には、岡原村では四割、球磨全地区では約二割を占める普及となった。これは全国でも例を見ない普及実績である。

湛水直播の収量は、移植栽培に較べ、一〇㌃当半俵～一俵多く、稲作労力は三分の一ぐらい節減される。産米の検査等級は、一般に一等級は高い。

この地区の移植栽培では、植込株数は多いが、土地が悪いために穂数が少い。また秋落がひどく、実入りが悪い。湛水直播栽培では穂数が多く、秋落ちが少く、実入りがよい。

そのため多収良質米となる。昭和四十一年の市町村別㌃当収量の伸びは大体湛水直播の普及率と一致している。湛水直播が余り普及していない市町村では、県平均ぐらいの伸び率であるが、普及率の高い町村では県平均を三～四割を上廻っている。

進む基盤整備

水稲の収量の伸びとともに、球磨地区の水田の基盤整備事業も急速に進んでいる。用水施設では、市房多目的利用ダムがある。これで用水が豊富となり、原野が主体に開田が広く行なわれている。さらに計画調査の段階のものとしては、川辺川多目的利用ダムがある。

囲場整備関係では、構造改善事業による錦・相良地区の完成、事業実施中の中球磨地区がある。

湛水直播栽培はたしかに球磨地区に適する水稲作である。そのため急激に普及をみた。ただしそれだけと見てはいけない。湛水直播の栽培の中には、球磨地方に適する最新の技術がすべて取り入れられている、また普及にあたっても関係機関の持ち場、持ち場での協力、機関どおしの連絡と協力、一元化した指導がなされている。

農家はそれをすなおに受入れた結果、成果が上った。

望まれる集団栽培の推進

球磨地方に適する湛水直播栽培としても、耕地面積の全部に及ぼす訳にはいかない。地利用、水、労力などが問題となる。しかし今後の稲作として、水利や土質などの自然条件が同じ水田の一区画では、品種や作期を統一し、肥料のやり方、水のかけひき、病害虫の防除などは総てが話合い、協定してやることが必要であり、有利である。いわゆる集団栽培の推進が大切である。今後水田たばこ、飼料作などが増反すれば、ますます集団栽培の必要性が高まるが、この点を稲作関係指導者、農家一体となって研究し、協議を守って球磨地区水稲作の発展に協力されることを期待したい。

（農業改良課）

★六月はじめは湛水直播のシーズンだ

よこがお

繊維企業の集中進出

＜多良木町＞

球磨村の渡地区から、市房ダムの第二堰堤までの約三八キロメートルにわたる、建設省直轄の球磨川上流改修工事が着工したのが昭和二十二年。四十年度までに、当初計画に対しては約四〇％の進捗率をみているものの、その後、四十年七月の大災害に伴なって、総事業費七二億円と全面的な改訂が行なわれた改訂計画に対しては、進捗率は僅かに一六％にすぎず、今後も相当な事業費の投入が要望されている。

ところで、改訂計画の一環として、四十一年度から、人吉市街地区の改修工事が約三七億円の事業費を投じて始まっている。

四十一年度の工事は、中ノ島を中心に球磨川本流の一部をせきとめ、人吉橋下流の宝来町地区と、水の手橋から山田川合流点にいたる、九日町など市街部の一キロ余に及ぶ特殊堤の建設。それに、四十二年度から着工される河床の掘削工事に先立って、中河原の河床を一部掘下げる工事が主なもの。

水害解消への布石

＜球磨川上流の改修工事＞

特殊堤は、計画洪水量プラス五〇センチの高さに、一割勾配のコンクリートブロックを積み、その上部に高さ一メートルの胸壁を建てたものになるが、工事は四十一年度に基礎工事を終り、四十二年度からは上部工事が進められる。さらに川幅が狭いために、洪水時のネックになっていた左岸の矢黒地区と、右岸の西瀬橋附近の拡幅工事も計画されている。

この市街地の改修工事は、工事箇所が観光都市、人吉市の心臓部ともいうべき場所だけに、たとえば、特殊堤のコンクリート・ブロックには炭素を含ませて黒味をつけ、対岸の織月城趾の苔むした石垣にもマッチするように気を配るなど、工事を担当している建設省八代工事事務所の配慮は、細かい点にも行き届いている。

ともあれ、水害の心配のない生活を、沿岸の人たちが改修工事にかける期待は大きい。

よこがお

繊維企業の集中進出

＜多良木町＞

熊本県は、南九州各県とともに、全国でも有数の労働力供給県といわれてきた。昭和三十年年代の後半、異常なまでの高度経済成長によって、これら労働力供給県の、特に農村地帯の労働人口は、地すべりのような流出をみせたのである。

しかし、それでもなお、先進工業地域では労働力の確保は困難であり、中卒者数の減少をみせた昭和四十年から四十一年度へかけては、新規学卒者の確保は、益々困難な状況となってきた。

一方、農村部では若年労働力の流出に、深刻な後継者難に陥った。こうした状況の下で、「いつそ労働力供給県である熊本県内に、工場を誘致しては」という大阪事務所の呼びかけは、ともに若年労働力不足の悩みをもつ、企業側、農村地域にとって、共通の福音となったのである。

四十年度末から四十一年度当初、続々と阪神の企業が進出を決定した。

なかでも、球磨郡へは、岡原村、錦町、免田町、多良木町、相良村、水上村と、繊維関係企業が集中的に進出したのであるが、こうした現象は、九州各県のどこにも見られないものである。

多良木町へは、大阪泉南地区から、靴下などの原糸となるウーリーナイロンを作る「西村繊維産業」が進出し、四十年十一月に操業を開始。第二期工事が完了すれば、現在の能力の二倍となり、撚糸機一万四〇〇錘。ナイロンウーリー糸月産一〇㌧となるのであるが、地元経済が刺戟され、また、県外流出の弱きが徐々ではあるが鈍化を見せはじめたいま、多良木町では、更に工場規模の拡大を期待しているのである。

ご存じですか

＜NHK・RKK 県関係番組＞

県政のPRの一環として、県ではNHK及びRKKと協力して次のような番組を放送しています。どうぞご利用下さい。

テレビ RKK

県民のひろば
毎月第2・第4土曜日（14.30～45）

ラジオ NHK

県民の時間
毎月第1週の木曜日（7.15～45）

ラジオ告知板
RKK
水曜日を除く毎日（18.50～19.00）

県庁アワー 毎週日曜日（9.10～25）

農家の広場
毎週日曜日（5.45～6.00）

農家の手帖
月火・水・木・金（6.50～55）

これからの中小企業
毎週日曜日（・9.40～45）